

ことばの読み・語形のゆれについて

～『NHK日本語発音アクセント辞典』改訂にあたって（意見交換）～

平成25（2013）年12月6日（金）、放送センターで第1376回放送用語委員会が開催された。第1370回、第1372回に引き続き『NHK日本語発音アクセント辞典』（以下、『アクセント辞典』という）改訂にあたって、ことばの読み・語形のゆれについて意見交換を行った。今回取り上げた語は次の語である。検討した語

ことばの読み・語形のゆれ

1. ありうる・ありえる、2. いがらっぱい・えがらっぱい、3. いこじ・えこじ、4. 極め付き・極め付け、5. 「背」の読み（背格好・背伸び）、6. 「行きつけ」の読み（イキツケ・ユキツケ）、7. 早合点の読み（ハヤガテン・ハヤガッテン）、8. 「～存」の読み（依存・共存・現存・残存・併存）、9. 気味の読み（キミ・キビ）・小気味の読み（コキミ・コキビ）、10. 捲土重来の読み（ケンドジューライ・ケンドチョーライ）、11. 施術の読み（シジュツ・セジュツ）、12. 私小説の読み（ワタクシショーセツ・シショーセツ）

表記関連

13. 中山道・中仙道の表記、14. 特例扱いの漢字表記

1370回、1372回同様、今回取り上げた語は、まだ「用語の決定」には至っていない。用語委員会からの意見を受けて、事務局でまとめたおしとうえ、再提案する。

● 議題

1. ありうる・ありえる

提案 ①アリウル ②アリエル

（これまで ○アリウル）

また「得る」は「○ウル（文語的）、○エル（口語的）」とする。（これまで ○ウル ○エル）

提案理由

伝統的には「アリウル」だが、「アリエル」も使われており、調査の結果からも、「アリウル」と「アリエル」が同等に使われている様子がわかる。年代差が見られ、特に若い年代を中心に「アリエル」が多い¹⁾。国語辞典でも「アリウル」を主な見出しにする

ものが多いが、「アリエル」という語形もあることを示す辞書も多い。

現在の『アクセント辞典』では「得る」の読みとしては「ウル」「エル」両方を認めているが、「あり得る」は「アリウル」しか認めていない。「得る」と「あり得る」とで扱いが異なるため、放送現場からの問い合わせも多い。

世論調査および辞書調査と放送現場からの問い合わせ内容から、「アリエル」も第2読みとして追加することを提案する。また、「得る」単独の場合の読みは、『ことばのハンドブック』（第2版）では、放送のことばとしては口語的な「エル」を使うことにしている。そのため、『アクセント辞典』でも「ウル（文語的）」「エル（口語的）」と使い分けを明示することとしたい。

参考

①調査 平成10（1998）年度ことばのゆれに関する調査（平成10年10月9日～12日・有効回答数：1,405人（2,000人対象））

「雨の場合は遠足の中止もあり得る。」

アリウル：48%、アリエル：51%

そのほか・わからない：1%

②用語の決定 なし

③『アクセント辞典』の掲載

昭和18年版、昭和26年版：ウル

昭和41年版～：ウル、エル／アリウル

④国語辞典掲載の変遷

	大正以前 (21冊)	昭和(戦前) (14冊)	昭和(戦後) (6冊)	平成 (16冊)
アリウル	1(1)	0	3(3)	16(16)
アリエル	0	0	1(0)	10(2)

	大正以前 (21冊)	昭和(戦前) (14冊)	昭和(戦後) (6冊)	平成 (16冊)
ウル	8(6)	4(2)	4(3)	16(16)
エル	11(4)	5(3)	5(5)	16(16)

* ()外は、語が何かしらの形で入っている辞書の数
()内は、主見出しになっている辞書の数（以下同）
あみかけ：掲載の多いもの（以下同）

●大正以前の辞書では、「ありう」の形の立項が21冊中6冊。

●戦前および大正以前の辞書では、「う」の形で立項されているものもある(35冊中5冊)。

⑤インターネット検索 (goo による検索)

ありうる(「ありえる」を含まない): 29万7,000件

ありえる(「ありうる」を含まない): 30万6,000件

●委員の意見

青木奈緒委員:どちらかというと口語では「アリエル」を使うことが多いとのことだが、ニュースで聞く場合には、「アリウル」のほうが聞きやすいのではないかという感想をもった。

野村雅昭委員:従来、このことばは「アリウル」という形でしか『アクセント辞典』にはあがっていなかった。『アクセント辞典』の立項では「アリウルありうる」とだけあって、「ありえる」はどこにもものっていない。これは、確かに不親切である。それはどうにかしなければいけないと思う。しかし、変更案として示された「①アリウル②アリエル」は、今度の『アクセント辞典』ではどのように立項されるのか。立項方法についてはまだ決定されていないのではないかと思う。

井上史雄委員:「あり得る」は複合動詞ととらえることもできる。複合動詞になって動詞が2つ重なったときにアクセントが変化するかしないのか、という問題もかかわる。『アクセント辞典』では「ありえる」「ありうる」2つを出して、それぞれについてアクセントを示す必要があるのではないか。

町田健委員:「うる」というのは、もともと下二段だったわけで「える」になるのが正しい変化だが、これだけがなぜか残っている。「結論をウル」のように、話すときにも言うことがある。「ありうる」というのが、全体として慣用句のように使われることもある。また「ありうべくは」のように古語風の言い方をする場合にも「う」が出てくる。「ありうる」を①にしておいて、口語的な「ありえる」もあげておくというので問題はない。

杉原満委員(部内委員・アナウンス室):アナウンスの立場で言えば、教育的な面から保守的な形をできるだけはっきり出してほしいということがある。特に「アリウル／アリエル」は、視聴者からの問い合わせが多い。「アリエル」を使うと視聴者からの抗議も多いという実感がある。教育的に「×アリエル」ぐらいがいい。

事務局:「①②」の語の立項方法については、第2読みを()に入れて示すことを考えている。これは現行の『アクセント辞典』と同じである。「ありうる、(ありえる)」「(ありえる)、ありうる」となる。2つの語形が近い場所に立項されるような場合は、統合するか検討が必要である。

2. いがらっばい・えがらっばい

提案 ①イカ°ラッポイ ②エカ°ラッポイ

(これまで ①エカ°ラッポイ ②イカ°ラッポイ)

提案理由

「エガライ」から転じた語で、伝統的には「エガラッポイ」だが、平成以降に出版された辞書では、どちらの語形も認めているものが多い。

調査の結果、「イガラッポイ」が多く、各年代ともに同様であった²⁾。これまで「①エカ°ラッポイ②イカ°ラッポイ」だったが、①②を逆転させることを提案する。

参考

①調査 平成22(2010)年度語形のゆれに関する調査(平成22年8月6日～15日・エリアサンプリング・有効回答数:1,279人(4,000人対象))

「のどがイガラッポイ／エガラッポイ」

イガラッポイ:89%, エガラッポイ:7%

このことばを知らない・わからない:4%

②用語の決定 なし

③『アクセント辞典』の掲載

昭和26年版:1.イカ°ラッポイ

2.エカ°ラッポイ

昭和41年版～:1.エカ°ラッポイ 2.イカ°ラッポイ

④国語辞典掲載の変遷

	大正以前 (21冊)	昭和(戦前) (14冊)	昭和(戦後) (10冊)	平成 (16冊)
イガラッポイ	7(7)	3(2)	5(3)	16(12)
エガラッポイ	9(7)	3(2)	9(9)	16(13)

⑤インターネット検索 (goo による検索)

いがらっばい(「えがらっばい」を除く): 7,000件

えがらっばい(「いがらっばい」を除く): 257件

●委員の意見

野村雅昭委員:「イガラッポイ／エガラッポイ」は、漢字の読みの問題ではなく、語形の問題である。こうした「エ」→「イ」の変化の例というのは、ほかにもいろんな語形で認められていることであり、これは「イガラッポイ」を第1にすることを認めてもよ

い。調査の結果から見てということではなく、そのことばの語源がわかりにくくなっているという理由による。語源に基づく言い方は「エガラッポイ」のほうが多いと思うが、現状としては「イガラッポイ」のほうが多数であるということで、原案に賛成である。

町田健委員：「イガラッポイ」については、「えぐい」と関係があり、「エガラッポイ」のほうが語源的には正しいのだろう。しかし実際には「イガラッポイ」と言う人が圧倒的に多い。提案のとおりでよいだろう。

3. いこじ・えこじ

提案 ①イコジ ②エコジ

(これまで ○イコジ ○エコジ)

提案理由

「エコジ」から「イコジ」に変化したと説明する国語辞典が多く、「エコジ」が伝統的な語形と考えられる。しかし、調査の結果、「イコジ」をとる人が各年代ともに多い³⁾。国語辞典でも、両方の語形を立項している辞書が多いが、平成以降に出版された辞書では、「イコジ」を主見出しとする辞書が増えている。『日本国語大辞典』(第2版・小学館)では、「えこじ(依怙地)」の変化したものとも、「いきじ(意気地)」の変化したものともいうという説明がつけられている。

『アクセント辞典』ではこれまで、両方の語形を同等に認めていたが、調査の結果のとおり「①イコジ②エコジ」とすることを提案する。

参考

①調査 平成 22 (2010) 年度語形のゆれに関する調査(平成 22 年 8 月 6 日～15 日・エリアサンプリング・有効回答数：1,279 人(4,000 人対象))

「イコジ／エコジになる」

イコジ：86%，エコジ：11%

このことばを知らない・わからない：4%

②用語の決定 なし

③『アクセント辞典』の掲載

昭和 18 年版：エコジ

昭和 26 年版～：イコジ，エコジ

④国語辞典掲載の変遷

	大正以前 (21 冊)	昭和(戦前) (14 冊)	昭和(戦後) (10 冊)	平成 (16 冊)
イコジ	11(9)	11(6)	10(9)	16(16)
エコジ	14(14)	13(13)	10(10)	16(10)

⑤インターネット検索(goo による検索)

いこじ(「えこじ」を除く)：3,030 件

えこじ(「いこじ」を除く)：1,300 件

●委員の意見

青木奈緒委員：「イコジ／エコジ」は漢字の表記はせずに、ひらがなで表記することを前提としているのだろうか。漢字で表記するということはないのだろうか。ネットで検索してみると、「意固地」の表記を使うことが多く、そのあとに「依怙地」の表記が出てくるようだ。どういう漢字を使うのか、使わないのか。また順番はどうなのだろうかということも気になる。

野村雅昭委員：「イコジ／エコジ」は青木委員の指摘のとおり、漢字表記の問題がある。漢語の問題である。しっかり証明はされていないが、「依怙」という漢語からできた語である可能性が強い。では、「イコジ」とする根拠はどこなのだろうか。提案には「意気地」が変化した形ともいうという『日本国語大辞典』の説明がのっているが、これも証明性には乏しい。「えこひいき」ということばの「えこ」と「えこじ」の「えこ」というのは関連があると認めるかどうかということで、このことばは考えるべきだろう。そう考えると、「①エコジ②イコジ」というぐらいの感じではないか。

事務局：新聞社・通信社では「イコジ」の読みをとっており、表記は「意固地」だが、NHK では「えこじ」「いこじ」とひらがな表記をしている。今後も表記はひらがなのままとする。

4. 極め付き・極め付け

提案 ①キワメツキ ②キワメツケ

(これまで ○キワメツキ)

なお、伝統芸能では「キワメツキ」。

提案理由

伝統的には「キワメツキ」である。もともと「(刀剣・書画などで)鑑定した証明書(極め書き)のついていること。保証付き」という意味の語で、ここから「定評のあること」を言う語として使われるようになった。

18 年前に行った調査で、すでに「キワメツケ」が多い結果が出ている⁴⁾。「定評があること」という意味で使われる場合、一般的には「キワメツケ」と言われることが多くなっているようだ。

国語辞典でも「キワメツキ」を主見出しに、「キワ

メツケ」の読みも説明するものが多くなってきている。こうしたことから「キワメツケ」の読みも認めることとしたい。ただし、語の成り立ちから考えて「キワメツキ」が本来の語である。「キワメツキ」を第1読みとし、「キワメツケ」は第2読みとすることを提案する。

なお、歌舞伎で、「ある役者の演ずる役柄で、他のどの役者もおよばないほどのほまり役」(『大辞林』)という意味で使われることもある。この場合は「キワメツキ」としか読まない。

参考

①調査 平成7(1995)年度ことばのゆれに関する調査(平成7年11月10日～13日・有効回答数:1,385人(2,000人対象))

「極め付き／極め付けの名作」

キワメツキ:36%, キワメツケ:62%

そのほか・わからない:2%

②用語の決定

●第1158回放送用語委員会(平8.2.8)

「キワメツケ」を認めるかどうか審議・検討されたが、「○キワメツキ ×キワメツケ」のままとなった。

③『アクセント辞典』の掲載

昭和18年版～:キワメツキ

④国語辞典掲載の変遷

	大正以前 (21冊)	昭和(戦前) (14冊)	昭和(戦後) (6冊)	平成 (16冊)
キワメツキ	0	5(4)	4(3)	16(16)
キワメツケ	0	0	1(0)	10(1)

⑤新聞社・通信社の扱い

新聞協会、共同通信、朝日新聞、読売新聞、日経新聞:極め付き。(注)「極め付け」は誤用

時事通信:極め付き

毎日新聞:極め付き(の作品)。(注)「極め付け」としない。「極め」は鑑定(書)のこと。「鑑定書付け」といわないのと同様に「極め付け」は不適切。

⑥インターネット検索(gooによる検索)

きわめつき(「きわめつけ」を除く):1,270件

きわめつけ(「きわめつき」を除く):1万3,700件

●委員の意見

野村雅昭委員:「キワメツケ」をのせることに反対である。いかに調査結果で「キワメツケ」が多いといっても、語源がはっきりしており「キワメツケ」とする根拠がない。しかも類例に「折り紙つき」「お墨つき」「血統書つき」などといったものがある。

いずれも「つき」である。なぜ「キワメツキ」だけが「キワメツケ」になるのか、その説明がよくわからない。そうしたことから考えて、「キワメツケ」という形をのせたくない。

町田健委員:NHKは標準的な日本語を提案するという立場から「キワメツキ」だけでよいのかもしれない。しかし、「キワメ」という語が独立して使われることは現代の日本語ではほとんどない。「キワメツキ」という語で1語のように意識されている。「きわめ」と「つく」が複合して構成されているとは理解されていない。だからこそ「キワメツケ」というあやまった表現が定着してきたのだろう。個人的には、「キワメツケ」はあまり好きではないが、「キワメツケ」もあわせて示しておくということが適切なのではないか。

杉原満委員(部内委員・アナウンス室):本来「キワメツケ」は誤用であるということが明確になる示し方はないものだろうか。

5.「背」の読み(背格好・背伸び)

提案 ①セカッコー ②セーカッコー

①セノビ ②セーノビ

(これまで

○セカッコー ○セーカッコー ○セイカッコー

○セノビ ○セーノビ)

提案理由

国語辞典では、「背格好」は「せいかつこう」の立項が多く、「背伸び」は「せのび」の立項が多い。「背格好」の場合は、古い辞書ほど「せいかつこう」が多いようだ。「せいかつこう」のほうが伝統的と言えるのかもしれない。一方、「背伸び」は古い辞典にはあまり立項がない。立項されるようになってからは「せのび」の立項が多い。

調査の結果、「セカッコー」「セノビ」の読みが多い。放送では、「セカッコー」「セノビ」を第1読みとすることを提案する。「セーカッコー」「セーノビ」の読みも、使われることがあると考え、第2読みとして残すこととしたい。

[セー]と[セイ]の発音については、[セー]に統一することを提案する。提案語の「背格好」「背伸び」のほか、「背」「背くらべ」「背高」「上背」「中背」なども同様の発音とする。[セー]は[セ]が長音化した語とも考えられる⁵⁾。[セイ]とはせず[セー]([ゼー])とする。なお、このほか、和語の二重母

音を含む語については、長音を原則（「かれい（魚）」→「カレー」）とし、[イ]で発音する慣用の強い語（「めい（姪）」「えい（魚）」など）は、[イ]とすることとする⁶⁾。

参考

①調査 平成 22 (2010) 年度語形のゆれに関する調査(平成 22 年 8 月 6 日～15 日・エリアサンプリング・有効回答数: 1,279 人 (4,000 人対象))

「背格好が似ている」

セカッコー: 94%, セーカッコー: 5%

このことばを知らない・わからない: 1%

「背伸びをすれば手がとどく」

セノビ: 96%, セーノビ: 4%

このことばを知らない・わからない: 0%

②用語の決定 なし

③『アクセント辞典』の掲載

昭和 18 年版: セノビ, セイノビ

昭和 26 年版: セイカッコー／セノビ・セイノビ

昭和 41 年版: セイカッコー, セカッコー

セノビ, セーノビ

昭和 60 年版～: セカッコー, セーカッコー,

セイカッコー／セノビ, セーノビ

④国語辞典掲載の変遷

	大正以前 (21 冊)	昭和(戦前) (14 冊)	昭和(戦後) (10 冊)	平成 (16 冊)
セカッコー	0	0	5(1)	16(7)
セーカッコー	9(9)	7(7)	8(8)	16(16)

	大正以前 (21 冊)	昭和(戦前) (14 冊)	昭和(戦後) (10 冊)	平成 (16 冊)
セノビ	1(1)	4(3)	5(5)	16(16)
セーノビ	0	3(3)	3(0)	4(0)

⑤インターネット検索 (goo による検索)

「背格好」

せかつこう

(「背格好」を含む。「せいかつこう」を除く): 17 件

せいかつこう

(「背格好」を含む。「せかつこう」を除く): 7 件

「背伸び」

せのび(「背伸び」を含む。「せいのび」を除く):

534 件

せいのび(「背伸び」を含む。「せのび」を除く):

9 件

●委員の意見

特になし

6. 「行きつけ」の読み (イキツケ・ユキツケ)

提案 ○イキツケ (～の店)

(これまで ①ユキツケ ②イキツケ)

提案理由

『アクセント辞典』では「行き～」の複合語の多くは「ユキ」と「イキ」の 2 つの読みが認められている。「行きつけ」についても「～の店」という用例を示して「①ユキツケ②イキツケ」としている。国語辞典の立項を見ると、伝統的な語形である「ユキツケ」としているものが多い。しかし、インターネットによる調査の結果、「～の店」という用例の場合「イキツケ」と読むという答えが多かった。使用実態も考えて、「イキツケ」の読みだけを認めることとしたい。

参考

①調査 平成 17 (2005) 年 10 月多数派少数派調査⁷⁾
(インターネットによる調査) (平成 17 年 10 月 17 日～11 月 21 日・有効回答数: 1,643 人)

Q. いつもよく利用する店のことを「いきつけ／ゆきつけ (の店)」と言いますが、これはどのように呼ばれているでしょう。

結果⁸⁾: イキツケ: 98%, ユキツケ: 2%

②用語の決定

●第 585 回放送用語委員会 (昭 40.9.2)

1. ユキツケ 2. イキツケ

(○イキツケから変更)

③『アクセント辞典』の掲載

昭和 18 年版, 昭和 26 年版: イキツケ

昭和 41 年版～: 1. ユキツケ 2. イキツケ

④国語辞典掲載の変遷

	大正以前 (21 冊)	昭和(戦前) (14 冊)	昭和(戦後) (7 冊)	平成 (16 冊)
イキツケ	0	2(2)	2(2)	13(6)
ユキツケ	0	2(2)	2(1)	14(11)

⑤「行き」「行く」の語の扱い

(『アクセント辞典』掲載語)

○イキ, ○ユキ: 行き, 行き合う, 行き当たり, 行き当たりばったり, 行き当たる, 行き帰り, 行きがかり, 行きかかる, 行きかけ (～の駄賃), 行きかける, 行き方 (やり方), 行き来, 行き先, 行きしな (行く途中), 行き過ぎ, 行き過ぎる,

行き詰まり、行き詰まる、行き倒れ、行き違い、行き違う、行き着く、行き所、行き届き、行き止まり、行き止まる、行き抜け、行き戻り、行き渡る、行く～

○イキ：行き場（「行き場がない」という場合は「ユキバ」）

○ユキ：行き合わせる、行き交い、行き方（ゆくえ）、行き方知れず、行き暮らす、行き暮れる、行きづらい、行きずり、行きつ戻りつ、行き連れる、行き悩む、行き場（～がない）、行き迷う、行き道

1. ユキ、2. イキ：行きつけ

⑥インターネット検索（goo による検索）

いきつけ（「行きつけ」を含む。「ゆきつけ」を除く）：7,560 件

ゆきつけ（「行きつけ」を含む。「いきつけ」を除く）：22 件（辞書関連のみ）

●委員の意見

青木奈緒委員：ほかのことで「イキ／ユキ」がまじっているものが多くある。それらを「イキ」でも「ユキ」でもかまわないとするのに、「行きつけ」の場合は、なぜ「イキツケ」だけにするのだろうか。確かに世の中では「イキツケ」という人が多いのと思うが、「ユキツケ」で通じないことはない。「イキツケ／ユキツケ」もどちらでもよいというふうにはできないだろうか。

井上史雄委員：提案に示されている世論調査の結果について、データの性質の違いを無視して間違った結論に至ったのではないかと、と思われるものがある。「多数派少数派」とある調査は、ネット上での調査だと思うが、「どちらを多く使いますか」という調査であり、「どちらしか使いませんか」という調査ではないと思う。例えば、「ユキツケ」とも言う、でも「イキツケ」と言うほうが多いと感じれば「イキツケ」がクリックされる。選択肢に「どちらの語も使う」という回答はなかったのではないだろうか。「イキツケとも言う」「ユキツケとも言う」という質問があればデータも異なったものになったのではないかと。なお、「いく」と「ゆく」は古代以来「ゆれ」を示す特別な動詞で、それが複合語にも反映している。

清水義範委員：例えば、「極め付き／極め付け」は「①キワメツキ②キワメツケ」という形で①と②で語を選べるようになっていて。しかし、「行きつけ」だけは「イキツケ」だけになっている。「ユキツケ」を②として残しておいたほうがほかのものとも合うの

ではないだろうか。これまで①にしてきた読みを②ともせずにとってしまうというのは、少し大胆すぎるように感じる。

7. 「早合点」の読み（ハヤガテン・ハヤガッテン）

提案 ①ハヤガテン ②ハヤガッテン

（これまで ○ハヤガテン ○ハヤガッテン）

ただし「合点」単独の場合は、これまでどおり

○ガテン ○ガッテンのまま

提案理由

「合点」単独の場合と同様に、現在の『アクセント辞典』では両方の読みを同等に認めている。しかし「早合点」の場合、促音を入れる「ハヤガッテン」の読みがあまり行われていないようだ。

国語辞典でも、「ハヤガテン」を主見出しにするものが多く、「ハヤガッテン」は説明の中に入れている辞書がいくつか見られる程度である。

インターネットによる調査では、「ハヤガテン」が多い⁹⁾。こうしたことから、「①ハヤガテン②ハヤガッテン」とすることを提案する。

参考

①調査 平成 25 (2013) 年 4 月多数派少数派調査（インターネットによる調査）（平成 25 年 3 月 18 日～4 月 15 日・有効回答数：727 人）

「早合点してしまった」

ハヤガテン：71%，ハヤガッテン：26%

これ以外の言い方をする：2%

②用語の決定

●第 597 回放送用語委員会（昭 41.1.13）

○ハヤガテン ○ハヤガッテン

（○ハヤガテンから変更）

③『アクセント辞典』の掲載

昭和 18 年版：ハヤガテン（ハヤガッテン）

昭和 26 年版：ハヤガテン

昭和 41 年版～：ハヤガテン、ハヤガッテン

④国語辞典掲載の変遷

	大正以前 (21 冊)	昭和(戦前) (14 冊)	昭和(戦後) (7 冊)	平成 (16 冊)
ハヤガテン	7(7)	11(10)	7(7)	16(16)
ハヤガッテン	2(0)	6(3)	7(0)	14(2)

⑤インターネット検索（goo による検索）

はやがてん

（「早合点」を含む。「はやがッてん」を除く）：167 件

はやがってん

(「早合点」を含む。「はやがてん」を除く): 17件

●委員の意見

荻野綱男委員 複合語は、単純語とは性格が違うが、「早合点」の場合、「早い」と「合点」がくっついたというのはどうしても意識せざるを得ないと思う。まったく違う意味になっているわけではない。それなのに、「合点」ではどちらでもいいとしながら、「早合点」では、①②をつけようとしている。このたぐいのことを言い始めると、面倒だということになりそうな気がする。調査の結果からすると「ハヤガテン」が①でいいと思いつつ、複合する場合とそうでない場合で違う決定をすることに少しひっかかりがある。

8. 「～存」のつく語の読み

(依存・共存・現存・残存・併存)

提案

依存 ①イゾン ②イソン

(これまで ①イソン ②イゾン)

「依存症」も同様

共存 ①キョーゾン ②キョーソン

(これまで ①キョーソン ②キョーゾン)

現存 ①ゲンゾン ②ゲンソン

(これまで ①ゲンソン ②ゲンゾン)

残存 ①ザンゾン ②ザンソン

(これまで ①ザンソン ②ザンゾン)

併存 ①ヘーゾン ②ヘーソン

(これまで ①ヘーソン ②ヘーゾン)

なお、「既存」は「キソン」,「恵存」は「○ケーソン○ケーゾン」,「厳存」は「ゲンソン」,「自存」は「ジソン」のままとする。

提案理由

「存」のつく語は、これまでも用語委員会で議論されてきている。「存在」を意味する場合は「ソン」,「知っている」ことを意味する場合(「存知」「存念」など)には「ゾン」と読む傾向があるようだ¹⁰⁾。NHKでは昭和16年に「存」の読み方を決定して以来,「イソン」「キョーソン」「ゲンソン」「ザンソン」「ヘーソン」の読みを第1読みにしている。

しかし、調査の結果、いずれの語も「～ゾン」が多くなっており、年代による差も見られない¹¹⁾。過去の調査でもすでに同様の傾向が見られている。用語委員会では「～ソン」→「①～ソン②～ゾン」と決定を変更してきている経緯があり、今回は「①～

ゾン②～ソン」とすることを提案する。なお,「併存」は調査をしていないが、ネット検索の結果から、ほかの「～存」と同様と考え「①ヘーゾン②ヘーソン」で提案する。

「既存」については、これまで「～ゾン」を認めたことがない。国語辞典では「キゾン」の読みを参考として入れる場合もあるようだが、今回は調査も実施しておらず、現行どおりとする。

放送では、特に「依存」「依存症」の読みが問題になることが多い。「イソン」「イソンショー」と読むことに違和感があるという声や、番組で「イソン」で統一することが難しいという声が聞かれる。医学用語や新語(「ゲーム依存」など)として使われる機会が多いうえに、医学の学術用語では「イゾン」「イゾンショー」の読みが使われているためのようだ。今回,「①～ゾン②～ソン」とすることで、これまでの「違和感」は解消されるのではないか。

一方、国語辞典では,「～ソン」を主見出しとするものが多く、伝統的な読みである「～ソン」を第2読みにすることには慎重になるべきだという考え方もできる。

参考

①調査

調査A 平成21(2009)年度語形のゆれに関する調査(平成22年2月5日～14日・エリアサンプリング・有効回答数:1,272人(4,000人対象))

「薬物に依存する」

イソン:6%, イゾン:92%

このことばを知らない・わからない:2%

調査B 平成22(2010)年度ことばのゆれに関する調査(平成23年1月7日～23日・有効回答数:1,323人(2,000人対象))

「現存する最古の遺跡」

ゲンソン:23%, ゲンゾン:74%

このことばを知らない・わからない:3%

調査C 平成23(2011)年度ことばのゆれに関する調査(平成23年11月3日～20日・有効回答数:1,365人(2,000人対象))

「自然との共存」

キョーソン:9%, キョーゾン:89%

このことばを知らない・わからない:1%

「有害物質が残存している」

ザンソン:15%, ザンゾン:83%

このことばを知らない・わからない:2%

②用語の決定

●第 85 回放送用語委員会(昭 14.2.13)

依存 イソン

●第 6 回ニュース用語調査委員会¹²⁾

(昭 16.2.13)

イソン, キョーソン, ゲンソン, ザンソン

●第 961 回放送用語委員会(昭 58.1.27)

1. イソン 2. イゾン (○イソンから変更)

●第 1101 回放送用語委員会(平 3.9.12)

共存 1. キョーソン 2. キョーゾン

現存 1. ゲンソン 2. ゲンゾン

残存 1. ザンソン 2. ザンゾン

併存・並存 1. ヘイソン 2. ヘイゾン

③『アクセント辞典』の掲載

昭和 18 年版～昭和 41 年版: イソン, ザンソン,
キョーソンキョーエイ, ゲンソン昭和 60 年版: 1. イソン 2. イゾン/ザンソン,
キョーソンキョーエイ, ゲンソン

平成 10 年版: 1. イソン 2. イゾン

1. キョーソン 2. キョーゾン

1. ゲンソン 2. ゲンゾン

1. ザンソン 2. ザンゾン

1. ヘイソン 2. ヘイゾン

④国語辞典掲載の変遷

	大正以前 (21 冊)	昭和(戦前) (14 冊)	昭和(戦後) (10 冊)	平成 (16 冊)
イソン	0	2(2)	8(8)	16(15)
イゾン	0	0	7(2)	16(3)
	大正以前 (21 冊)	昭和(戦前) (14 冊)	昭和(戦後) (10 冊)	平成 (16 冊)
キョーソン	1(1)	4(4)	10(10)	16(14)
キョーゾン	0	1(0)	4(0)	16(5)
	大正以前 (21 冊)	昭和(戦前) (14 冊)	昭和(戦後) (10 冊)	平成 (16 冊)
ゲンソン	11(10)	13(12)	10(10)	16(16)
ゲンゾン	1(1)	2(0)	5(0)	15(1)
	大正以前 (21 冊)	昭和(戦前) (14 冊)	昭和(戦後) (10 冊)	平成 (16 冊)
ザンソン	4(4)	10(10)	10(9)	16(13)
ザンゾン	0	2(1)	4(2)	16(4)
	大正以前 (21 冊)	昭和(戦前) (14 冊)	昭和(戦後) (7 冊)	平成 (16 冊)
ヘイソン	0	0	5(5)	16(16)
ヘイゾン	0	1(1)	4(0)	15(1)

⑤専門用語の扱い

『学術用語集・医学編』(平 15)

izon 依存/ izonsyô 依存症

⑥インターネット検索(goo による検索)

「依存」

いそん(「依存」を含む。「いぞん」を除く): 2,130 件

いぞん(「依存」を含む。「いそん」を除く): 3,020 件

「既存」

きそん(「既存」を含む。「きぞん」を除く): 1,540 件

きぞん(「既存」を含む。「きそん」を除く): 441 件

「共存」

きょうそん(「共存」を含む。「きょうぞん」を除く):
267 件きょうぞん(「共存」を含む。「きょうそん」を除く):
518 件

「現存」

げんそん(「現存」を含む。「げんぞん」を除く):
579 件げんぞん(「現存」を含む。「げんそん」を除く):
275 件

「残存」

ざんそん(「残存」を含む。「ざんぞん」を除く):
165 件ざんぞん(「残存」を含む。「ざんそん」を除く):
262 件

「併存」

へいそん(「併存」を含む。「へいぞん」を除く):
47 件へいぞん(「併存」を含む。「へいそん」を除く):
69 件

●委員の意見

野村雅昭委員: 「存在」を意味する場合は「ソン」, 「知っている」ことを意味する場合は「ゾン」と読む傾向があるというのは事実かどうか。中国語の用法に即してみるとそういうことはない。ただ, 日本語の中でそういう傾向があることは間違いない。しかし, すべてがそうではなく, 例外は出てくる。同じように「存」がつく語で, 「実存」「保存」などはゆれがなく「ゾン」としか読まない。一方, 「生きる」という意味の「生存」は古くは「ソン」だったものが, 現在では「ゾン」でゆれがなくなっている。2 字目に「存」がくる場合, はじめは「ソン」と読まれていても, 連濁で「ゾン」になることはある。本来どちらだったかは決めがたい。中国語から入ってきたとき

に、「ソン」「ゾン」で使い分けがあったのかはわからない。現実はいこうだと言われれば、連濁が大勢であることは確かである。本来の読みがどうであったにせよ、2字目の連濁現象は「ゾン」に統一していくということが大きな方向かなと思う。そう考えると、「既存」もそれに合わせてしまっただろうか。両方を認めることは賛成だが、どちらを優先させるかという点については、まだ「ソン」を第1読みにし、「ゾン」は第2読みとするという気持ちが強い。

町田健委員：「存」の字が漢語の2番目の成分として出てくるときには、前に母音があるので「連濁」をしたくなるというのが日本人の発音の傾向で、提案の語は全部「ゾン」でかまわないと思う。「既存」は「キソン」のまま変えないということだが、「ソン」でなければいけない意味的な理由もないので、「キゾン」でよいのではないかな。そうすれば統一がとれる。

9. 気味 (キミ・キビ)

小気味 (コキミ・コキビ)

提案

気味 ○キミ

(これまで ①キミ ②キビ)

小気味 ○コキミ

(これまで ①コキミ ②コキビ)

提案理由

「キビ」の読みも伝統的にはあるようで、「気味」を漢音読みしたものとも、「キミ」の読みから転じたものとも言われている¹³⁾。方言でも多くの地域で「キビ」という読みが使われているようだ。

調査の結果、「いい気味だ」と同じ「快・不快の気持ち」の意味の場合でも、「キビ」の読みはあまり使われていないことがわかる。年代による差も見られない。インターネットの検索結果でも同様である。こうしたことから「○キミ」とし「キビ」の読みはとらないことを提案する。

また「小気味」も、「気味」と同様に、「○コキミ (コキビを削除)」とする。

参考

①調査 平成 23 (2011) 年度ことばのゆれに関する調査 (平成 23 年 11 月 3 日～ 20 日・有効回答数:1,365 人 (2,000 人対象))

「気味が悪い」

キミ:96%, キビ:4%

このことばを知らない・わからない:0%

②用語の決定 なし

③『アクセント辞典』の掲載

昭和 18 年版, 26 年版:1.キミ 2.キビ/コキミ

昭和 41 年版:1.キミ 2.キビ/1.コキミ 2.コキビ

昭和 60 年版～:1.キミ 2.キビ (～が悪い) /キミ (かぜの～) / 1.コキミ 2.コキビ

④国語辞典掲載の変遷

	大正以前 (21 冊)	昭和 (戦前) (14 冊)	昭和 (戦後) (10 冊)	平成 (16 冊)
キミ	21(21)	14(14)	10(10)	16(16)
キビ	19(13)	11(7)	7(4)	11(8)

	大正以前 (21 冊)	昭和 (戦前) (14 冊)	昭和 (戦後) (7 冊)	平成 (16 冊)
コキミ	14(11)	11(9)	7(7)	16(16)
コキビ	5(0)	5(0)	4(2)	8(2)

⑤インターネット検索 (goo による検索)

きみが悪い(「気味」を含む。「きび」を除く):

142 件

きみ(「気味」を含む。「きび」を除く):

10 万 6,000 件

きびが悪い(「気味」を含む。「きみ」を除く):

10 件

きび(「気味」を含む。「きみ」を除く):

1 万 500 件

こきみ(「小気味」を含む。「こきび」を除く):

194 件

こきび(「小気味」を含む。「こきみ」を除く): 5 件

●委員の意見

青木奈緒委員:自分では「キミ」と言うが、子どものころには、おばあさんたちは「キビが悪いね」と言っていたのが耳に残っている。

清水義範委員:明治・大正ぐらいまでは「キビが悪い」という言い方があったのを本で読んだことがあるが、今は普通には言わないので、現在普通に使う「キミ」「コキミ」でいいだろう。

10. 捲土重来

(ケンドジャーライ・ケンドチョーライ)

提案

①ケンドジャーライ ②ケンドチョーライ

(これまで ○ケンドジャーライ)

提案理由

「捲土重来」は、政治家の発言としてニュースで使われることがある¹⁴⁾。これまでNHKでは「ケンドジューライ」だけをとってきたが、「～ジューライ」の読みを使うと視聴者から「誤読ではないか」という指摘を受けることがある。

「ケンドジューライ」「～チョーライ」のどちらが伝統的かは不明だが、古い辞書では「ケンドチョーライ」を見出しにしている辞書が多く、時代がくだって「ケンドジューライ」の読みをとる辞書が出てきている。

インターネットによる調査では、「～ジューライ」と読むとおかしいと感じる人が多い¹⁵⁾。新聞社・通信社は、「ケンドジューライ」「ケンドチョーライ」、どちらの読みもあることを示しているところが多い。どちらの読みも間違いとは言えないが、国語辞典で主見出しにとることの多い「ケンドジューライ」を第1読みに残し、「～チョーライ」も第2読みとして認めることを提案する。

なお、耳で聞く放送の場合、こうした難しい漢語は言いかえたほうがよい。新聞社・通信社でも「巻き返し」という言いかえを優先させている。コメントや歴史的な場面でどうしても使わなければいけない場合の読みとして提案する。

参考

①調査 平成 22(2010)年 11 月多数派少数派調査
(インターネットによる調査) (平成 22 年 11 月・有効回答数:563 人)

「捲土重来」の読み方

どちらも正しい: 17%

「けんどちょうらい」は正しいが

「けんどじゅうらい」はおかしい: 55%

「けんどじゅうらい」は正しいが

「けんどちょうらい」はおかしい: 17%

どちらもおかしい: 1%

わからない: 11%

②用語の決定 なし

③『アクセント辞典』の掲載

昭和 18 年版～: ケンドジューライ

④国語辞典掲載の変遷

	大正以前 (21 冊)	昭和(戦前) (14 冊)	昭和(戦後) (7 冊)	平成 (16 冊)
ケンド ジューライ	0	7(6)	7(4)	16(9)
ケンド チョーライ	3(3)	10(10)	5(3)	16(8)

⑤漢字の読み

重: 漢音 チョウ 呉音 ジュウ

⑥新聞社・通信社の扱い

いずれも「巻き返し」と言いかえることを優先。読みは以下のとおり。

新聞協会, 朝日新聞, 毎日新聞:

けんどじゅうらい・けんどちょうらい

読売新聞, 日経新聞: けんどちょうらい(「重来」は「じゅうらい」とも)

共同通信, 時事通信: けんどじゅうらい(「ちょうらい」とも)

⑦インターネット検索(gooによる検索)

けんどじゅうらい(「捲土重来」を含む。「けんどちょうらい」を除く): 429 件

けんどちょうらい(「捲土重来」を含む。「けんどじゅうらい」を除く): 966 件

●委員の意見

野村雅昭委員: 大きな方向として1つの漢字に複数の音(おん)がある場合は、だんだん1つの読みになっていくのは大勢である。しかし、例外的にどうしてもかわらないものというのも存在している。「ジュー」と「チョー」はどちらかの読みによせてしまうというのはまだ難しい。それにもかかわらず、新たに使われるようになった「チョーライ」をとるのか。そういう意味では「チョーライ」はあまり認めたくないところだ。「ジューライ」を①にして、「チョーライ」を②にするということだが、本当にそれで放送現場はいいのだろうか。どちらかということ強く出さないと現場としては困るのではないかという気はする。「ハンドブック」として、なるべく「①②」の併記がないほうが望ましい。放送に関して言えば「ジューライ」だけでいいように思う。

町田健委員: 「重」がつく漢語では「ジュー」と読むことのほうが多いのは確かである。「ケンドジューライ」にしたほうが楽だということはそのとおりである。しかし、日本語の漢語の読み方の傾向として、あまり人が使わないほうを使うとえらくなったような気がする。つまり「チョー」の読みのほうが難しく聞こえる。そのため、政治家は「ケンドチョーライ」を使いたくなるのだろうし、こちらの読みで使われることが多くなってしまったのだろう。

清水義範委員: 利口ぶる感じで「チョーライ」の読みが出てきているようで、確かに耳にするのは「チョーライ」のほうが。2番目の読みに入れておけ

ばいいだろう。

11. 施術 (シジュツ・セジュツ)

提案 ①セジュツ ②シジュツ (新立項)

提案理由

「施」の音読みは「セ」「シ」の両様あり、常用漢字表でも両方の読みを入れている。「施」を使った漢語では、「セ」「シ」で読みに迷う語がいくつかある。例えば、「施行」「施工」である。

今回提案の「施術」は、国語辞典の多くは「シジュツ」の読みだけで立項している語である。しかし、一般には「セジュツ」と読まれる場面も多い。放送現場からも、国語辞典の立項に違和感があるが、放送ではどうなのかという質問を受けることがある。

「あん摩マツサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」には「施術所」「施術者」などの文言がある。このほか、最近では、エステなど美容関係のニュースで、「施術」という語が出てくることもあるため、放送現場からの問い合わせも多い。実際に、放送で「セジュツ」の読みを使っている場合も出てきている。

インターネットによる調査でも、「セジュツ」という読みが多い¹⁶⁾。年代が高い人ほど「セジュツ」という読みをとっている。学習によって「セジュツ」と読むようになっていこうと考えられそうだ。

こうしたことから、放送では「セジュツ」を第1読みとする。

ただし、「医者が医療の術を施すこと。特に手術を行うこと」を意味する語であり、医療行為でないエステや美容(まつげのエクステンションやネイルアートなど)には、使うべきではないという考え方もできる。単純に「何かの手当てを相手に行う、施す」という意味ではできるだけ「施術」という語を使わず言いかえるなどの工夫をする必要がある。

参考

①調査 平成 25(2013)年 10 月多数派少数派調査(インターネットによる調査)(平成 25 年 9 月 17 日～10 月 21 日・有効回答数:960 人)

「施術」を始める

シジュツ:14%, セジュツ:83%

両方とも言うが表す意味が異なる:1%

どちらも言わない:3%

②用語の決定 なし

③『アクセント辞典』の掲載 なし

④国語辞典掲載の変遷

	大正以前 (21 冊)	昭和(戦前) (14 冊)	昭和(戦後) (7 冊)	平成 (16 冊)
シジュツ	8(8)	11(10)	7(7)	14(14)
セジュツ	0	0	0	4(0)

●調べた辞書の中で、「セジュツ」の初出は『大辞林』(平 18・三省堂)。「シジュツ」の立項の中で「セジュツ」の読みも説明している。

⑤漢字の読み

施:漢音 シ、呉音 セ

⑥インターネット検索(goo による検索)

しじゅつ(「施術」を含む):107 件

せじゅつ(「施術」を含む):356 件

●委員の意見

野村雅昭委員:本来「施」の読みは場面によって「シ」「セ」を使い分けるべきだと思う。ただの読みの問題ではなく、日本語の言語単位として「施」の字で書かれる「シ」と「セ」というのは、本来使い分けがあった。にもかかわらず、議会などで「施行(セコー/シコー)」が混同して使われるようになった。さらにそれが一般の語にまで広がっていったというたいへん困った例である。大勢は「セ」が一般化している傾向にある。もともとの使い分けは、できる限り「セ」は「施主」「お布施」「施餓鬼」などのように仏教語起源のものに限っておくべきだ。類音語などは漢語を使わず言いかえるようにしたほうがよい。「施術」は国語辞典でも「シジュツ」で立項しているものが多い。今まで、両方の読みを認めていたのであればともかくも、「セジュツ」を第1の読みとして突然出してしまうのはちょっと問題がある。もし立項するならば、「①シジュツ②セジュツ」にしたい。

町田健委員:「施」は「シ」が圧倒的に多い音読みである。しかし、「シジュツ」では「手術」と間違えられてしまうことも考えられる。「セジュツ」としたほうが、聞いただけでわかりやすい。

事務局:「シジュツ」の場合、アクセントは頭高(シ\ジュツ)になる¹⁷⁾。放送では「手術」と紛らわしいという問題点もある。

12. 私小説（ワタクシショーセツ・シショーセツ）

提案 ①シショーセツ ②ワタクシショーセツ

（これまで ①ワタクシショーセツ ②シショーセツ）

提案理由

大正9年から大正10年頃にかけて使われ始めた語。もともと「私は」という表現で書かれることが多いことから「私は（わたくしは）小説」「私（わたくし）小説」と表現されるようになった¹⁸⁾。

用語委員会では、昭和42年に本来の読み方を尊重して「ワタクシショーセツ」という言い方を第1読みとする決定をした。

しかし、国語辞典の立項や、最近の語の使われ方から「シショーセツ」という読みが一般的であると考えられる。そのため、「シショーセツ」を第1読みとすることを提案する。

なお、「ワタクシショーセツ」の読みは、専門的な場面では使われることがあり、第2読みとして残すこととしたい。

参考

①調査 平成17(2005)年10月多数派少数派調査（インターネットによる調査）（平成17年10月17日～11月21日・有効回答数：1,643人）

小説の分類「私小説」の読み方

シショウセツ：94%，ワタクシショウセツ：5%

これ以外の呼び方：1%

②用語の決定

●第633回放送用語委員会（昭42.4.13）

1. ワタクシショーセツ 2. シショーセツ

③『アクセント辞典』の掲載

昭和26年版：シショーセツ

昭和41年版～：①ワタクシショーセツ

②シショーセツ

④国語辞典掲載の変遷

	大正以前 (21冊)	昭和(戦前) (14冊)	昭和(戦後) (7冊)	平成 (16冊)
ワタクシ ショーセツ	0	1(1)	7(7)	16(10)
シショー セツ	0	0(0)	7(6)	16(12)

⑤インターネット検索（gooによる検索）

ししょうせつ（「私小説」を含む）：119件

わたくししょうせつ（「私小説」を含む）：86件

●委員の意見

特になし

13. 中山道・中仙道の表記

提案

表記は原則として「中山道」とする。

固有名詞および歴史的な場面では「中仙道」と書くこともある。

（これまで ①中仙道 ②中山道）

提案理由

昭和40年の放送用語委員会で「①中仙道 ②中山道」と決定したが、現在では、学校教育および国語辞典、国土交通省による道路標示なども「中山道」で統一されている。「中仙道」も古くから一般的に使われていた表記だが、享保元(1716)年に、すでに江戸幕府により「中山道」に統一された¹⁹⁾。

こうしたことから、これまでの決定を変更し、「中山道」の表記を原則とすることを提案する。ただし、歴史番組などの時代考証の結果「中仙道」の表記を使いたいという場合は、これを禁止するわけではない。

参考

①調査 なし

②用語の決定

●第579回放送用語委員会（昭40.6.10）

1. 中仙道 2. 中山道

「中山道」と書く場合には「中山道」[なかせんどう]とふりがなをつけるのが望ましい。

③『アクセント辞典』の掲載

昭和18年版，昭和26年版，昭和41年版：

中仙道

昭和60年版：掲載なし

平成10年版：中仙道，中山道

④国語辞典掲載の変遷

	大正以前 (21冊)	昭和(戦前) (14冊)	昭和(戦後) (7冊)	平成 (16冊)
中山道	2(2)	6(6)	5(5)	11(10)
中仙道	6(6)	9(9)	6(5)	11(10)

⑤専門用語の扱い

道路標識 → 「旧中山道」「中山道」を使用

学校教科書 → 「中山道」を使用

⑥インターネット検索（gooによる検索）

中山道（「中仙道」を除く）：9万2,300件

中仙道（「中山道」を除く）：5万6,400件

●委員の意見

特になし

14. 表記の特例について

提案 十干十二支関連の語は、表外字・表外音訓の語でも、読みがなつきの漢字表記とする。

表記のしかたは下記のとおり

例：甲（きのえ）／^ね甲，子（ね）／^ね子
お酉様（おとりさま）／お^{とり}酉様
庚申塚（こうしんづか）／^{こうしんづか}庚申塚

提案理由

『アクセント辞典』には歴史関連の語が多く掲載されている。特に、干支関連の語は、方角、年中行事などに関連した語でも使用され、立項が多い。これらの語の多くは、常用漢字表に含まれていない漢字や音訓である。新聞社・通信社では、NHK同様、常用漢字表にのっとって漢字表記を決めているが、干支関連の語は、特例として読みがなつきで表外字、表外音訓でも使用しているところもある。

これまでも、『NHK漢字表記辞典』では「表外字・表外音訓を用いてよい語」として、固有名詞や特定の分野の語などを例示しており、「酉の市」「初午」のような行事はその例に含まれている²⁰⁾。しかし、「いぬい」「うま年」などのように『漢字表記辞典』にひらがなで立項されている項目もある。放送現場からは、原則が2つあるようで混乱するという声も聞かれる。

毎年の干支、「酉の市」などの行事、祭り関連で、一般ニュースでも「干支関連」の語は出る機会が多い。こうしたことから、『アクセント辞典』改訂を機に、NHKでも、十干十二支関連の語は特例として、漢字を使用できるようにすることを提案する。ただし、その場合には、読みがなをつける。

●委員の意見

井上史雄委員：この提案は、常用漢字表に含まれていない漢字の読みを新たに認めようというものである。今までの漢字表記の考え方とは異なる。これまでは、漢字使用を制限していたものを、そうでない形にする提案だ。議題には辞書ではどうなっているか、実際にネットでどのように使われているかなどのデータがあがっていない。今日の審議議題の中では例外的なものだと思う。大原則に及ぶ提案だが、データが足りない。もう少し調べてはどうだろうか。

野村雅昭委員：漢字の特例については、今日提案されるというのが意外な感じがする。語形のゆれ

と一緒に審議してしまってよいのだろうか。ほかのゆれのある語と同じように、使われ方が明らかになっているとは思えない。別途検討しなおしたほうがいいのではないか。

事務局：「表記の特例」については、別途調査をしたうえで、再提案するかを検討する。そのほかの語については、今回の意見をもとに、変更案を再検討し、第1279回放送用語委員会（平成26年2月開催予定）で再提案する。

山下洋子（やました ようこ）

注：

- 1) 深草耕太郎(1999)「感動で鳥肌が立つ」は許されるか～第9回ことばのゆれ全国調査から②～『放送研究と調査』第49巻第4号
- 2) 太田眞希恵(2011)「のど」は「イガラッポイ」？「エガラッポイ」？～語形のゆれに関する調査（平成22年8月）から～『放送研究と調査』第61巻第7号
- 3) 注2に同じ
- 4) 浅井真慧・深草耕太郎(1996)「大地震」のゆれはいまも大～第6回ことばのゆれ全国調査から～『放送研究と調査』第46巻第4号
- 5) 『日本国語大辞典』（第2版・小学館・平13）には、「背」の読みについて、「せ」「せい」の項目に次のように説明がある。

「せ」：本来「せ」は外側、後方を意味する「そ」の転じたもので、身長とは結びつかなかった。ところが「今昔」（中略）に「身の勢、極て大き也」とあるように、身体つき・体格を意味する「勢（せい）」が存在するところから、音韻上の近似によって、「せ（背）」と「せい（勢）」とが混同するようになったと思われる。

「せい」：「せ」の長音化とすれば「せえ」と表記すべきとも考えられるが、古くから「せい」と表記されており、「せい（勢）」から生じた用法か。

- 6) 和語の「えい」「けい」「せい」（エ段に続くイ）関連の語の発音について、用語委員会の席上では意見は出なかった。しかし、和語の場合、語ごと

に発音が異なることもあり、今後も検討することとなった。なお、漢語の「えい」「けい」「せい」の発音は、第6回アクセント辞典改訂専門委員会で「自然な発音」を示すこととなった（塩田雄大（2012）『NHK 日本語発音アクセント辞典』改訂項目表示形式の検討『放送研究と調査』第62巻第9号）。つまり「経験」の発音は新しい『アクセント辞典』では[ケーケン]と示される。また、外来語は例外はあるものの表記のとおりに発音することが原則である。これは現行『アクセント辞典』と変更はない（例えば、「make」は「メーク」と表記し[メーク]と発音）。和語、漢語、外来語の表記と発音の問題点については、井上史雄（2006.3）（「外来語の表記と発音の問題点－エイを中心に－」『明海日本語』10・11合併号 p.13～p.23）参照

- 7) NHK 放送文化研究所のホームページ内で実施している調査。「文研ホームページ」→「国語力テスト」→「多数派少数派」で見ることができる。語形や使用方法がゆれていることばについて毎月調査している。「国語力テスト」：<http://cgi2.nhk.or.jp/bunken/kokugo/index.cgi>
本文中で「インターネットによる調査」とあるのは、いずれも、「多数派少数派」の調査である（「イキツケ・ユキツケ」「早合点」「捲土重来」「施術」「私小説」の調査データはこの調査のもの）。なお、「インターネット検索」は、検索エンジン「goo」を使用して、その語が何件使われているかを調べたものである。「多数派少数派」調査とは異なる。そのほか「ことばのゆれに関する調査」と示しているのは、世論調査として全国調査を行ったもの
- 8) 議題では、選択肢をまとめたが、実際の調査では、5つの選択肢から選ぶようになっていた。ア。「いきつけ」ということばしか聞いたことがないし、自分も「いきつけ」としか言わない(72%)。イ。「ゆきつけ」ということばしか聞いたことがないし、自分も「ゆきつけ」としか言わない(1%)。ウ。「いきつけ」も「ゆきつけ」も聞いたことがあるが、自分はどちらかといえば「いきつけ」と言うことのほうが多い(26%)。エ。「いきつけ」も「ゆきつけ」も聞いたことがあるが、自分はどちらかといえば「ゆきつけ」と言うことのほうが多い(1%)。オ。これ以外の呼び方をする(0%)

- 9) 注7に同じ
- 10) 塩田雄大(2011)『「美男子」が多いのはどの地域? ～ことばのゆれ調査(平成23年1月)から①～』『放送研究と調査』第61巻第10号
- 11) 注10に同じ
- 12) 昭和15年9月から昭和20年5月までであった委員会。現在の「放送用語委員会」の前身。当時の担当部局は「報道局」
- 13) 『日本国語大辞典』(第2版・小学館)の「きび」の項目に「きみ(気味)」の漢音読みとも、「きみ(気味)」の変化した語ともいう」という説明がある
- 14) 「NHK ニュースアーカイブス」(昭和60年～平成25年のニュース原稿収録・部内資料)を使って、「捲土重来」を検索したところ、19件のニュースに「捲土重来」という語が含まれていた。そのうち18件は政治家の発言を伝えるもの
- 15) 注7に同じ
- 16) 注7に同じ
- 17) 『大辞林』(第3版・三省堂・平18)
- 18) 『新潮日本文学辞典』(増補改訂・昭63)。「私小説(わたくししょうせつ)」:(前略)大正9年12月から大正10年1月にかけて「所謂『私小説』」とか「私は小説」とか「『私』小説」というような用語例がはじめて新聞雑誌に散見する、ということである。」
- 19) 『国史大辞典』(吉川弘文館・平元)。「中山道:中仙道とも書いたが、享保元年(1716)に江戸幕府は、東山道の内の中筋の道であるから、古来より中山道と称しているとし、東山道・山陽道などの「山」はセンと読んだと説明している。しかし、民間では中仙道とも書き、信濃国の木曾路を通るので、木曾街道・岐蘇路・岐祖路などともいわれた。」
- 20) 『NHK 漢字表記辞典』(NHK 出版・平23)「原則(I 漢字)」10.表外字・表外音訓を用いてよい語」参照

第1376回放送用語委員会(東京)

【開催日】平成25年12月6日(金)

【出席者】青木奈緒氏、井上史雄氏、荻野綱男氏、清水義範氏、野村雅昭氏、町田健氏、長田恭明 NHK 放送文化研究所副所長 ほか